

094

contents

第58回山口県美術展覧会

大きなやきもの

常設展

年間スケジュール

# 天花

TENGE



案本武雄(1901-1996) 「阿國」 1929年 山口県立美術館蔵

## 常設展

小林和作記念室・資料展示室

まつ  
「**梶本武雄**」

11/2 tue ~ 12/12 sun

## 表紙作品解説

まつ 梶本武雄 (1901-1996) 「阿国」 1929年  
 絹本着色 235×116cm 山口県立美術館蔵

陶元まで伸びたさらさらの髪、風に揺らぐようなしなやかなボディライン、舞台栄える華麗な紅白の着物も印象的なこの女性。暗い廊下で出会ったらすこしこわいような独特の迫力をも持ちあわせています。首に大きな数珠を掛け、右手に杖を、左手には笠を持っている彼女の名前は「阿国」。その出身地(出雲国:現在の島根県)から「出雲の阿国」と呼ばれ、慶長8年(1603)に京都の四条河原で踊ったかぶき踊りが大人気を博した、歌舞伎の始祖です。

作者のまつ 梶本武雄は明治34年(1901)、京都で染織図案を営む家庭の6人兄弟の次男として生まれました。自ら京都画壇の重鎮菊池芳文に師事した父は、長男一洋を山本春拳(京都画壇復興に寄与した萩出身の森寛齋門下)に、次男武雄を菊池契月につかせるなど息子たちの絵画教育にもたいへん熱心でした。武雄の画技はこうした京都画壇の中心にある恵まれた環境で育まれ、若くして大阪美術展覧会や日展に出品するようになったのです。大正期には現代風の婦人像が流行し、師契月や兄一洋と同様、武雄も多くの婦人像を描きました。その流れをうけたこの作品は、歴史上の女性をクローズアップして独特の雰囲気を持たせた昭和の意欲的な作品といえます。

当館ではこのまつ 梶本武雄の作品20点を亡くなった翌年の平成9年にまとめて購入(一部寄贈)していましたが、画絹を巻いただけの状態だったために展示公開は困難でした。この度ようやく一部の額装が完成し、お披露目することができました。当館の新しい顔ぶれを、すみからすみまですすすいーとお引き立てのほど、よろしくお願いたします。(当館学芸員 杉野愛)

る  
(門)

(ク

ま

「む

元永  
自由に  
んな刺に県美  
しても

ク

第5

003年)

## 郷土工芸室

## 「古萩の世界」9/28~2005/1/30

江戸時代初期から制作が始まった萩焼は、江戸時代を通じて茶陶としての評価を高め、現在にいたっています。このたびは、江戸時代につくられた、いわゆる古萩を展示し、その歴史と伝統を概観します。

「萩花文割儀形鉢」  
江戸時代前期  
山口県立美術館蔵



## 香月泰男室・小林和作記念室・資料展示室

## 「現代のやきもの」9/28~10/31

生活の用途に根ざした陶芸から、土を素材としたクレイワークへ。「用」から生み出された美を洗練させてきた陶芸は、戦後、その枠にはおさまり切らない作品を次々と生み出していきました。このたびの展示では、当館が収蔵する、戦後日本の「土」による造形をご紹介します。

西村陽平  
「独逸浪漫主義-アッシジに寄せて-」1982  
山口県立美術館蔵



## 香月泰男室

## 「現代の写真」11/2~2005/1/30

現実の世界をそのままに写しとれるということ。これこそが、私たちが惹き付けてやまない写真の魅力であるといえるのですが、現代の写真表現はその枠にはおさまり切らない多様な展開を見せています。このたびは、当館が所蔵する作品を展示し、現代写真の魅力の一端をご紹介します。

ウーライ  
「残像」1996  
山口県立美術館蔵



## 第2常設展示室

## 「雪舟と雲谷派」11/2~11/28

日本の美術史を代表する画家雪舟は、山口を主要な活動の場としていました。この展示では、当館所蔵の雪舟画と、雪舟の画風を受け継いだ画家たちの作品を紹介します。(雪舟筆「牧牛図」は11/2-14に、「山水図巻」は11/16-28に展示します。)

雪舟等楊  
「牧牛図(渡河)」  
山口県立美術館蔵



山口県

# 美

# 術展覧会



第8回やまぐち県民文化祭

第58回

平成16年 9/9(木) ▶ 26(日)

休館日/9月13日・9月21日  
開館時間/午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)  
観覧料/一般250円(200円) 学生200円(150円)  
※( )内は20名以上の団体料金  
※18歳以下、70歳以上のかた、および高等学校、盲・聾・養護学校に在籍されるかた等は無料  
主 催/山口県・山口県教育委員会



制作の創造性を高める(つくる)と同時に、美術作品を鑑賞すること(みる)や美術文化を支えていくこと(ささえる)もまた優れて創造的な行為であるとの意識を育成できるような、総合的な美術文化の普及と振興をはかります。

「つくる・みる・ささえる」の創造的調和

自由な意識や現代社会に根ざした作品を募集し、その優秀なものを展示します。



審査会 平成16年8月31日・9月1日  
審査員 榎木野衣(美術評論家・多摩美術大学助教授)  
元永定正(美術作家・成安造形大学客員教授)  
山下裕二(美術史家・明治学院大学教授)

出品点数 352点  
入選点数 98点

大賞 「ハリマ風土記「春」」 針間文彦(防府市)  
優秀賞 「カモノハシとサカナ」 うへのけいこ(山口市)  
「モノローグ◎※△#!」 白木靖子(下松市)  
「プレゼントは廃木から」 高木真樹(周南市)  
「THE BIG」 山根秀信(山口市)  
「コスモス」 吉村芳生(徳地町)

特別展示 「カバノ木カバ子のモバイル屋さん」  
稲村あすか・潔・風和子・滝(防府市) 昨年度大賞受賞作家



広く県民から募集した美術館ボランティアスタッフに県美展の運営に参画してもらい、芸術支援の活動を展開してもらいます。

## ボランティアによるギャラリートーク

9月11日(土)・18日(土)・25日(土) 11:00～  
会場：県美展会場(要チケット、申込不要)

## みんなが自由に審査員!

会場内の県美展の作品に、あなたならではの賞をつけてください。



ボランティアによるギャラリートーク(2003年)

# みる

(ワークショップ部門)

鑑賞行為の創造性を体験してもらうための  
ワークショップを開催します。

## 「元永先生の 県美展ギャラリーツアー」

県美展審査員の元永定正先生が、自らのユニークな  
芸術論を交えながら県美展の出品作品を紹介します。

9月11日(土) 14:00-15:00  
会場：県美展会場 (要チケット、申込不要)

## こどものためのワークショップ

### 「むちゃくちゃ絵描き」

元永定正先生の指揮のもと、床に敷きつめた紙に子どもたちが  
自由に絵を描きます。真っ白い部屋が絵の具でぐちゃぐちゃに!  
こんな刺激的な体験はめったにできないかも!?

9月12日(日) 14:00-15:00  
会場：県立美術館講座室 (要申込)



対象年齢：4歳～小学生  
定員：子ども30人+保護者(先着順)  
申込方法：参加者の氏名、年齢、住所を記入した、往復はがき、Fax、  
またはe-mailにて  
宛先：〒753-8001 山口県立美術館 元永定正ワークショップ係  
山口県立美術館 元永定正ワークショップ係  
e-mailアドレス：a50702@pref.yamaguchi.lg.jp

- 荒瀬 景敏 (美術作家)
- 今井 徹也 (建築家)
- 大村 慎一 (山口県環境生活部文化振興課長)
- 岡屋 武紀 (山口県教育委員会文化財保護課長)
- 小南 英昭 (山口県立大学生活科学部助教授)
- 濱本 聡 (下関市立美術館学芸課主査)
- 原田 文明 (美術作家)
- 堀家 敬嗣 (山口大学教育学部講師)
- 三輪 和彦 (美術作家)
- 森川 紘一郎 (周南市美術博物館長)
- 横山 眞佐子 (児童書専門書店 (株)こどもの広場代表取締役)

第58回 山口県美術展覧会  
運営委員 (50首順)

## 県美展ギャラリーツアー

### 荒瀬景敏の「よく分かる県美展ツアー」

毎年好評の、県美展運営委員の荒瀬景敏さんによるギャラリーツアーを、  
今年も下記の日程で行います。荒瀬さんをツアー・コンダクターとして県  
美展会場をまわりながら、それぞれの作品の魅力について語り合います。

日時：9月19日(日)・26日(日) 11:00～  
会場：県美展会場 (要チケット、申込不要)



\*19日のギャラリー・ツアーには、NHKアナウン  
サーの山下稔哉氏にゲストとして参加していただき  
ます。

### 常設展示

## 「大きなやきもの」

11月2日(火)～23日(火)  
観覧料/常設展観覧料と共通  
会場/企画展示室

第2次世界大戦後、陶の世界に新しい波が起こりました。戦後の世界観の変革にもなっ  
て、陶の世界においてもやはり著しい変革が起こってきたのです。

それは、一言でいえば、生活の用途を離れたということでしょう。「用」から形作られ洗  
練されてきた陶芸は、「用」という枠  
組みから解き放たれ、土を素材とした  
自由で闊達な造型へとその性質を変  
えていくこととなります。そのひとつ  
の結果として、作品が大型化したこと  
があげられるでしょう。土と土に向  
かい合い、形そのものを、そして触感  
そのものを追求する試みは必然的に  
ダイナミックなスケールを必要とした  
のです。

このたびの展示では、当館所蔵のク  
レイワークから、ピーター・ヴォーコス  
や、三輪龍作、三輪和彦等の大きな作  
品を紹介いたします。



恒久破壊 I 1987年 三輪和彦  
山口県立美術館蔵

特別展

4 4/6~5/23  
 [開館25周年記念]  
 没後30年 **香月泰男展**

—〈私の〉シベリア、そして〈私の〉地球—

5 5/25~5/28 臨時休館

6 6/1~6/6 伝統工芸新作展

6 6/25~8/1  
 [開館25周年記念]  
 平成大修理完成記念

7 **周防国分寺展** —歴史と美術—

8 9/9~9/26  
 [開館25周年記念]  
 第8回やまぐち県民文化祭

9 **第58回山口県美術展覧会**

10 11/2~11/23  
**大きなやきもの**

11 12/7~12/12 第57回学校美術展覧会

1 1/6~3/13  
 [開館25周年記念]  
**ピカソ展**

2 幻のジャクリーヌ・コレクション —イメージの変貌—

3

5/29 現代の工芸 宮崎進 画稿の魅力 川田喜久治

7/4 7/6 ほとけのかたち 8/1 8/3 小さい彫刻たち 中本達也 絵巻の楽しみ 東松照明

9/26 9/28 古萩の世界 現代のやきもの 10/31

11/2 現代の写真 梶本武雄 雪舟と雲谷派 11/28

12/12 12/14 福田勝治の銀座

1/30 2/1 萩の茶陶 植木茂 松田正平

## Information

■休館日  
 月曜日(月曜が祝日もしくは振替休日の場合は翌日休館)  
 年末年始(12月28日~1月3日)  
 5月25日~5月28日

■開館時間  
 9:00~17:00(入館は16:30まで)

■料金  
 常設展:一般190(160)円 学生120(100)円  
 ( )内は20名以上の団体料金  
 特別展:別途に定めた料金  
 常設展・特別展ともに18歳以下と70歳以上および高等学校、  
 盲・聾・養護学校に在学する方等は無料。  
 教育文化週間11月1日~11月7日は全ての方が無料。

山口県立美術館  
 The Yamaguchi Prefectural  
 Museum of Art  
 〒753-0089  
 山口市龜山町3-1  
 TEL:083-925-7788  
 FAX:083-925-7790  
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/kenbi>

